



こんにちは、千手堂二区です。

私達の区は昭和54年、国道254嵐山バイパス開通に伴い地区が二分された為、千手堂の分家の如く千手堂二区として、町内28番目の行政区として誕生しました。

昨年、区誕生30周年併せて集会所建設20周年、まさに二重三重の喜びの式典を町長、教育長ご列席の元、紅白幕に囲まれた集会所で盛大に行いました。

私達の区は他区に自慢できる物も、神社も、お祭りも有りません。唯一誇れる事は、コミュニティケイションの良さです。年5回の美化運動には毎回100名程が参加し

ます。特にバイパス沿いの空き地を町の同意を受け、区内有志が力を合わせて花壇や敷石等で整備し、行き交う人々に楽しんで頂いています。

又、ゴミのポイ捨て等も減少し、居住環境美化の重要性を再認識しています。

老人会や子供会の活動は大変活発で、恒例の区民ハイキングには5歳児から75歳のお年寄りも含め、総勢50名が助け合い、励ましながら楽しい一日を過ごします。

昨年、区の将来を担う若手を中心に、区民クラブ「川枝野球部」が再結成されました。練習を重ね、いつの日か町の大会で優勝できる日を夢見て、区民一体となって応援しています。



蛭舞う自然環境と、市街化地域が融合し生活する街志賀一区を紹介します。昔、志賀村は「四家村」と呼ばれ四つの地区の代表が村を支えていたことから村名が付いたと言われている。県道に沿って南西と北東の両側を山に囲まれ細長く民家が点在し、冬は赤城おろしの北風が吹きぬけ、火災が発生すると民家をなめつくす様な大火に幾度となく見舞われたと伝え聞きます。また小さな宿場であったため、その名残でお互いを屋号で呼び合う習慣があり（新規転入者には分かりづらいようですが、今でも同姓の多い地区のため姓名を言われるより屋号で呼び合う事が常識となっています。

志賀地区内では、1965年から団地造成が始まり、その後、区画整理事業等によって人口も増加し行政区も志賀二区、志賀三区（現在のむさし台の一部）へと三分割され、住宅街と農村地域が共存し

た地区に発展しました。人口の増加に伴い、地域で抱える課題も多様化しましたが「安全・安心のまちづくり」に向けて、区民皆理解し合い協力し生活しております。農道は緑豊かな散歩道、歴史ある村の鎮守様、神社にまつわる様々な行事の伝承等、新旧の住民が溶け合って共存しております。

つい先日にもボランティアグループで地区中央を流れる志賀沢川の清掃を行いました。この川には上流に蛭が生息しており、今年も七月始め蛭の飛び交うのを確認いたしました。このような豊かな自然を保つことが出来るのも、地域の皆様協力のおかげと喜んでおります。近々堂沼公園も完成します。水と緑に囲まれた歴史と文化を持つ志賀一区で生活できる事を誇りに思います。

